

# こころ日記「ぼちぼち」④

## 変わりゆく教育現場

相変わらず、学校現場と繋がる仕事をしている。

今年度も、地域の小学校の不登校支援員として働くことになった。知ってのとおり、学校はブラックな職場と化している。何がそうさせているのか、何がいけないのかを議論する間もなく、現場は多忙を極めている。昔のことを懐かしむ年寄りにはなりたくないが、明らかにここ10年ほどの教育現場の変容には、びっくりすることが多い。

まず、本当に人が足りていない。これは、どこのどの学校も常態化していると思う。

世の中には不思議なことが多い。例えば、子どもの数が減っているのにどうして保育園の待機児童が多いの。同じく学校も児童の数は減っているのに、人手不足だ。

どのような職種でもそうだが、団塊世代が退き、そのあとの世代もどんどん退職していき、世代交代が進んでいる。

教員も世代交代が進み、8割以上は20代～30代。しかし、若いからと安心できない状況がある。新規採用教員の早期退職も珍しくなく、1ヵ月後に突然出勤拒否といったことが、どこの学校でも起こっている。それ以前の問題として、採用されても辞退する者が多く、欠員状態でスタートする学校が小学校から高校まで、なんと多いことか。

まず担任する教員がいないなどの問題が起こり、管理職は臨時職員探しに翻弄することになる。が、新年度はスターしなければならぬ。管理職も総出での授業確保となり、職員室は空の状態が日常的だ。

学校は、煩雑な業務が目白押しだ。例えば、外部侵入を防ぐために校門の閉鎖チェック。遅刻の児童に送り迎えが頻繁だと、

作業が増える。インターホンでの対応は、仕事の手が止まる。職員室には、たいてい事務職員しかいないから、その人も本来の仕事が滞る。

コロナ禍以降デジタル化が進み、欠席連絡はweb対応になっている。朝教員は、必ずパソコンを開け、児童の出欠をチェックしなくてはならない。特に不登校について、今日登校するのかしないのか微妙なので、大事な仕事なのだ。

欠員状態の学校は、校務に関わる一人一人の仕事の量も当然増える。報告文書の提出も多く、教員はいつもパソコンと向き合わなければならない。学校便りの全ては紙ではなくwebだから、その作成も大変だ。

保護者は、学校の動向はスマホで確認するようになっているが、私もweb登録をさせられ、日に2、3の通知が届き、正直面倒だなと思っている。



学校では、デジタル教科書の実用化が進み、児童一人ひとりにタブレットがあてがわれている。その管理も教員の仕事だ。ほとんどの授業では、テレビのモニターを見ながら学習が進み、子どもたちは自分のタブレットに考えや答えを入力する。一人ひとりの入力を確認し、学習理解をチェックするシステム。先生からのメッセージも、子どもたちに届く。先生は板書もするが、その板書を写メに撮り、それぞれの児童のタブレットに送る。だから、ノートに写す学習が減っている。

タブレットの便利さもある。理科や社会の

調べものに使える。しかし、学習以外にも興味のあることをこっそり調べている子もいる。動画など、ある程度制限はかけられているが、得意な子は、難なく好きな動画につながっていく様子を見たことがある。

教員は学習中、モニターの操作に気を取られて、子どもの様子が見られていないなど感じることもある。

全ての学習は、デジタル化できない。昔のように、今も漢字練習ノート、計算ノートなどを子どもたちは使っている。その教材を点検し丸をつけ評価する仕事は、昔と変わらない。机の上には、子どもたちのノートが渦高く積まれているのを見ると、大変だなと思う。困みにテストも紙ベースだ。

IT化によって、教員の仕事は、楽になったのだろうか。



学校がブラックな職場だと言われる一つに、残業問題などの働き方にある。退勤時刻に帰る教員はほとんどいない現実。今教員の働き方改革と言われているが、一向に仕事は減らない、しかも人手不足の中で、教員は疲弊している。

私は中学校に長く勤務したが、一番嫌いだったのは部活動だった。必ず土日は、他校との試合に出かける。長期休みは遠征にも出かけなくてはならない。今問題になっている、生徒の送迎もしていた。電車での引率などなど、トラブルもあり大変だった。教育をするために教員になったのだ。部活動に何の魅力も感じなかったし、試合の勝ち負けで、生徒たちを叱咤激励するなんて、とてもできない人間だった。だから保護者からは、あの顧問は熱心じゃないと思われていたと思う。

退勤時刻が、16時45分なのに、部活動は18時まで。下校指導をすると、残業にな

る。それも毎日だ。生徒が部活動をしているのに、先生は帰れないだろう。この矛盾に、私は長年苦しんできた。今も中学校現場では同じ状況が続いている。

教員の働き方改革を推進している文科省に従い、前向きに実践している市もある。

今勤務している小学校は、学習の1時間を40分授業に設定し、午前中は5時間授業になっている。今年度からの実施だが、8時25分から始まり、12時20分に終わる。給食後は、6時間目で終了。6年生も15時には下校するようになってから、その後の教員の仕事の時間が増える仕組みだ。今までなら、16時以降でないと仕事ができなかったのが、子どもたちを早く下校させることで、教員も退勤時刻に帰れるということだろう。実際に教員が時刻どおり退勤できているのか、できていないと思う。

コマ数的には授業時間は確保されているが、45分授業から40分授業の移行で、学習内容に支障はないのだろうか。教室の移動や、体育の着替えの時間など、やはり午前中の5時間授業は、せわしなく慌ただしい。

だれのための働き方改革なのか。授業時間を短縮することで、失われることが多いのではないか。ゆとりのない学習は、教員にとっても子どもにとってもいい結果は生まれないような気がする。

北欧などの先進国は、デジタル化による弊害があることから、字を書くことを重視するアナログ的な学習に変わってきていると聞く。そして教科書もちゃんと読んで、理解することが見直されている。

子どもを育てるのには、時間がかかる。日本は近く学習指導要領が改定されるが、学習内容は、より一層デジタル化が進みそうな勢いだ。教員の働き方は、改善されるだろうか。

つづく